

実践女子短期大学

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

実践女子短期大学の概要

設置者	学校法人 実践女子学園
理事長	高橋 芳樹
学 長	飯塚 幸子
A L O	岡田 正
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	東京都日野市神明1-13-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
日本語コミュニケーション学科		100
英語コミュニケーション学科		120
生活福祉学科		80
食物栄養学科		80
	合計	380

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

実践女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月14日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

下田歌子という文学史上に名を残す個性を、創立者としてもつということが、この学園のアドバンテージとなっている。その優れた個性と明確な理念を核として、人が集まり縦横に知的ネットワークをはりめぐらせる。学習現場として理想的な形である。

建学の精神がカリキュラム編成の動機となっている。結果、完成された教育課程は有機的な連動体となって、建学の精神を宿す身体となっている。講義概要は、体裁よく統一感のある仕上がりをみせていて、評価方法も明示されている。

図書館は、全般的に充実した整備で、学生の利用も活発であると判断され、教育効果の向上に大きく貢献している点は高く評価される。

教育目標の達成のための努力は、組織的になされている。その成果は、学生の満足度や成績の良さに現れている。

充実した学生支援の体制が整えられており、効果的に展開している。

教職員の研究のための条件は、個人研究費の面でも、図書費や研究室の広さの面でもよく整備されている。

生涯学習センターを設置し、大学と短期大学との連携の下に、地域における生涯学習の機会を増やすように努めている。また、地元の日野市役所や小学校との協力関係を強め、地域共同活動を推進しているのはすばらしい。

管理運営全般については、各々の体制が確立されており、また円滑な連携を踏まえながら、効率よく機能している。

短期大学分の財務体質は、おおむね順調に推移している。施設・設備の管理については、常に安全性の向上を目指して取り組んできている。

平成5年から自己点検・評価についての実施体制を確立して、その後改革・改善を重ね

て今回の第三者評価を受け、その結果を改革推進のために活用しようとしている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

下田歌子「小伝」が配布され、香雪記念館が設置されている。特に歌碑には、ボタンを押すと校歌が流れるなど工夫されている。校歌を唄うことができない学生が多い中、帰属意識とプライドの醸成のためのよい工夫となっている。

評価領域 教育の内容

総合教育に「日本語表現法」を含む必修科目群を置き、また、選択の総合科目群はポリシーの感じられる設定になっている。

評価領域 教育の実施体制

適切な教育環境を確保していると判断される。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

退学、休学、留年などの学生がきわめて少ない。

評価領域 学生支援

キャリアセンターの取組みは効果的に機能していると考えられる。

評価領域 研究

各教員の研究発表のシステムが整備されている。
教育研究プロジェクトが全学規模で、学長、短期大学部長のリーダーシップの下に活発に活動している。

評価領域 社会的活動

時代の要請に応じたテーマを選択し、20年以上公開講座を連続して実施している。
市役所や地元諸組織と強い協力関係を築いている。
学生のボランティア活動は活発で、教員も積極的に関わっている。

評価領域 改革・改善

自己点検・評価を平成5年から継続して行っている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

講義概要において、参考書や参考文献紹介に力をいれることが望まれる。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

卒業後評価への取組みとして、卒業生が気楽に母校に立ち寄れる雰囲気醸成に努められたい。

評価領域 研究

過去3年間、著作と論文発表のない教員の研究業績発表が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

下田歌子という文学史上に名を残す個性を、創立者としてもつということが、この学園のアドバンテージとなっている。その優れた個性と明確な理念を核として、人が集まり縦横に知的ネットワークをはりめぐらせる。学習現場として理想的な形である。

教育目的・教育目標については、講義概要や履修ガイダンス、あるいは自己点検・自己評価報告書の作成時、さらには年度始めオリエンテーション、ゼミなどの機会を通じて点検することになっている。

講義概要、履修要項の配布、さらには自己点検・評価委員会の活動が教育目標の共通理解に資している。また、折に触れ行われる学長挨拶の内容も共通理解の確認あるいは呼び水となる。

評価領域 教育の内容

各学科それぞれは、演習に力点が置かれている。教養教育は、共通の「総合教育」において充分に実施されている。特に、必修の基礎科目群を設定しているところや、選択の総合科目群の、時宜に即した、多彩な科目展開などが注目される。

食物栄養学科および教職課程・図書館学課程は免許・資格が目的化されている。他学科においても、多種多様な免許・資格への道を用意している。取得を義務付けたり、試験を自学で実施したりして、本格的な取組みをみせている。生活福祉学科が、生涯学習センターも活用して免許・資格取得への配慮をしていることも注目されよう。

授業内容および教育の方法については、履修要項、履修の手引き、講義概要が作成さ

れ、オリエンテーションなどで説明がなされ、学生はそれに基づき履修科目を選択している。

ウェブサイトで公開された教員アンケートをみると、それぞれ担当科目の授業改善を図るべく努力している。Semester制のため、評価が半年サイクルであることから、改善の結果がすぐにみえるという点も、教員側の意欲をかきたてている。

評価領域 教育の実施体制

短期大学設置基準に規定される教員組織が整備されており、かつ活発な教育活動が展開されている。

短期大学設置基準以上の校地・校舎面積を有し、その環境もよく整備されている。

各種機器の設置された講義室および演習室などが十分に用意されている。

図書などについては十分な購入予算が確保されており、図書館は図書館規程、図書館管理規程、図書委員会規程にしたがって、確立したシステムのもと運用されている。図書館利用指導もよくなされ、学習センターとしての機能を果たしている。

図書館は、全般的に充実した整備で、学生の利用も活発であると判断され、教育効果の向上に大きく貢献している。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

最終授業終了後に実施している満足度調査によれば、すべての学科で満足度は高い。担当教員はこの結果についての対応が求められ、公開されるので、各教員とも真剣である。食物栄養学科の専門就職率は良好である。

教育目標の達成のための努力は、組織的になされている。その成果は、学生の満足度や成績のよさに現れている。

評価領域 学生支援

短期大学事務の入試担当と短期大学・大学の入試センターとにより受験生に対する支援がなされている。

また選抜についても多様な方式が展開されており、受験生の状況に配慮している。

入学予定者に対しては、課題の提示による学習指導や、履修ガイダンスなどの発行・送付による情報提供が行われ充実した入学前教育が施されている。

学習支援としては、学科ごとにその特徴に合わせた指導がなされている。

学習指導に関わる資料も全学的なもののほか、学科ごとの印刷物も発行されており充実している。

学生相談センターの設置、クラス担任制、オフィス・アワーの実施のほか、セクシャル・ハラスメント相談の体制も整い、学生生活支援は組織的にも体制的にも確立されている。優秀者に対しての奨学制度もよく整備されている。

事務の学生担当や顧問教職員の支援・指導の下、学友会活動・サークル活動ともに活発に展開されている。

キャリアセンターが組織されキャリア支援が行われるとともに、「キャリアプランニング科目」群が展開され、キャリア教育が効果的になされている。

キャリアセンター資料室から種々の情報提供が行われ、キャリアセンターを中心に、ガイダンスや就職対策講座などの支援業務が行われている。

充実した学生支援の体制が整えられており、効果的に展開している。

評価領域 研究

活発な研究活動が行われている。毎年3～4件の外部研究費の申請がなされており、その半数が採択されている。

「実践女子大学・短期大学研究費内規」が整備され、教員の研究が奨励されている。

教職員の研究のための条件は、個人研究費の面でも、図書費や研究室の広さの面でもよく整備されている。

評価領域 社会的活動

平成17年に、「地域共生型教育指針」と「プロジェクトJ」が策定され、地域に対する短期大学の位置づけが行われ、地域に役立ち、地域と共生する短期大学を目指した活動が行われている。

小学校、家庭支援センター、日野市国際交流協会、農業協同組合などにおけるボランティア活動に多数の学生が参加し、その活動状況を全学的に知らせる機会を作っている。過去3年間に62名の学生をアメリカとイギリスに派遣しており、意欲的である。イギリスのシェフィールド大学、サセックス大学、カナダのフレーザーバレー大学、中国人民大学、中国伝媒大学と単位互換の制度を取り決めて、双方向の交流に努めている。

生涯学習センターを設置し、大学と短期大学との連携の下に、地域における生涯学習の機会を増やすように努めている。また、地元の日野市役所や小学校との協力関係を強め、地域共同活動を推進しているのはすばらしい。

評価領域 管理運営

理事長を中心に法人組織の管理運営体制が確立しており、理事会、監事および評議員会

は、寄附行為に基づき、それぞれの機能が適切に果たされている。

また、監事は、理事会・評議員会への出席はもとより、業務の執行については常任理事会および企画推進協議会にも出席し、常に執行状況を掌握している。会計監査においては、公認会計士からも検査などの実施状況を聴取し、意見交換を踏まえるなど十分な連携を図っている。

教育・研究活動全般については、学長のリーダーシップの下、教授会を中心として、また、各種委員会での活発な活動も含めて、円滑な運営に努めている。

事務組織の活性化に取り組む一方で、職員研修や意見交換などを通じて、常に職員の意識改革を推進する努力が重ねられている。

事務関係の規程は、よく整備されており、この規程に基づき事務処理がなされている。文書の保存は定めた年限により分類するとともに、重要書類の保管状況も良好である。また、防災などの安全管理については、防火、防災関係の諸規程を定めるとともに、防災訓練の実施など所要の対策を講じ、予防や安全の確保に努めている。さらに、学生の旅行中における事故などの対策マニュアルを策定して、迅速な対応ができる体制をとっている。

学生との関係では、信頼される事務職員を目指して、意識改革を始め、応対に工夫をこらすなど、学生の満足度の向上に努めている。

就業規則や人事および給与規程などは、よく整備されている。

また、健康管理や就業環境の改善などの福利厚生面でも、前向きに取り組んでいる。

評価領域 財務

毎年度の事業計画と予算編成は、経営方針である「学園経営5ヵ年計画」を基に編成されており、財務運営の計画性・効率性が確保されている。

予算の執行状況を常時把握することで、予算の効率的な執行を図っている。

財務の公開についても、適切に行われている。

短期大学の財務体質はおおむね順調に推移しているが、短期大学の平成17年度決算で、消費支出比率が100%を若干超えている。これについては今後、設置を予定している短期大学改革委員会で検討がなされる。

安全・安心に向けての対策として、諸規程の整備、施設・設備の維持管理および訓練の実施など、積極的に取り組んできている。

地球環境への配慮から諸々の対策も行っている。

短期大学分の財務体質に若干の課題があるが、おおむね順調に推移している。施設・設備の管理については、常に安全性の向上を目指して取り組んできている。

評価領域 改革・改善

平成5年に、教授会の下に自己評価委員会を設け、それ以後自己点検・評価について研究・調査を行いながら、実施体制を確立している。平成17年自己点検・評価全体を総括する自己点検・評価委員会および自己点検・評価運営委員会を新たに組織し、自己点検・評価の実施を総括して、その下に従来自己評価委員会を位置づけている。

自己点検・評価委員会、自己点検・評価運営委員会、自己評価委員会、FD（ファカルティ・ディベロップメント）推進委員会があり、規程として「実践女子短期大学自己点検・評価に関する規程」、「実践女子短期大学FD推進委員会規程」がある。このような組織と規程を作って自己点検・評価を行っている。

平成16年から昭和女子大学短期大学部との相互評価を行い、『実践女子短期大学・昭和女子大学短期大学部 相互評価報告』を平成17年に発行している。